

音楽科学習指導案（1年4組）

1 題材 音の高さを工夫して、イメージに合った旋律をつくろう

2 題材設定の理由

(1) 教材観

①学習指導要領上の位置付け

[知識及び技能]

A(3)創作イ(ア)音のつながり方の特徴

(イ)音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴

ウ 創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付けること。

[思考力、判断力、表現力等]

A(3)創作ア 創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、創作表現を創意工夫すること。

②題材の価値

本題材では、生徒が表現領域において最も触れることの多い要素である「旋律（音の高さとそのつながり方）」を主な視点として、簡単な和声進行から想起した表したいイメージをどのように音楽表現していくかについて考えていく。音のつながり方には、順次進行上行、順次進行下行、跳躍進行上行、跳躍進行下行の4種類を基本形にして、様々な組み合わせが考えられる。それぞれのつながり方が醸し出す特質や雰囲気を感じ取りながら表したいイメージに合った旋律を作り出す活動を通して、音のつながり方の特徴を知り、自分なりの旋律をつくる技能を身に付けることができる。また、既習事項であるリズムの「反復・変化」にも着目して創作することで、多面的・多角的に音楽を捉え、新たな思いや意図をもつ経験をすることができる。そして、自分の作品を何度も弾いて加筆修正したり、他者の作品を聴いて評価したりすることで、創作した旋律が表したいイメージを表現するのにふさわしいかどうかの妥当性を判断する力を養うことができる。中学校音楽科初めての創作として小学校音楽科との接続を図り、今後の表現領域における基礎をつくるためにも、本題材を学習する価値は大きい。

③題材の系統性

- ・小学校高学年において、ハ長調のⅠ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅴ₇の和音について知覚・感受する学習を行ってきた生徒が大半である。また、和音に含まれた音を使ったり、ペンタトニックスケールを使用したりして、簡単な音楽づくりを経験してきた。
- ・中学校第2学年では、パッヘルベルのカノンに用いられている和声進行（Ⅰ－Ⅴ－Ⅵ－Ⅲ－Ⅳ－Ⅰ－Ⅳ－Ⅴ－Ⅰ）に合わせて、リズムや音のつながり方を工夫した旋律の創作を行う。

(2) 生徒観（男子17名、女子17名 計34名）

①既習の学習内容や活動

- ・授業の開始時のあいさつとして、Ⅰ－Ⅴ－Ⅰの長三和音による和声進行を練習し、出席番号順に1人ずつ演奏する活動を行っている。
- ・前題材「反復変化を生かして歌い方を工夫しよう」では「主は冷たい土の中に（フォスター）」を教材として、音楽は同じことの繰り返しと変化によって成り立っていることに気づき、その効果を生かした歌唱表現の工夫について思いや意図をもち、実践してきた。

②本題材に関わる生徒の実態

- ・知識及び技能について、27名の生徒が小学校での和音についての学習を覚えており、練習を通して全員がキーボードを使用してⅠ－Ⅴ－Ⅰの和音を演奏することができた。
- ・思考力、判断力、表現力等について、前題材において「音がだんだん低くなると、強弱もだんだん小さく聴こえやすい」ことから、全員が「最後まで小さくならず歌いたい」「伸ばす音の最後までゆっくりと息を使いたい」などの思いや意図をもつことができる。しかし、歌詞の感情やイメージと関連させた思いや意図を発言できる生徒はいなかった。旋律の音のつながり方と感情やイメージとの関わりに焦点を絞って知覚・感受させ、今後の学習へと応用できる思考力、判断力、表現力等を育成したい。

(3) 指導観

- ・始業の挨拶で用いる I - V - I の和音の流れに合わせ、即興的に右手でリズムを刻んだり、音を変えてみたりする活動を通して、短い簡単な旋律を作ることの楽しさを味わわせ、創作への関心や意欲を高める。
- ・生徒の即興的な作品から、同じ和音をもとにしても、旋律によって雰囲気が変わること気づかせ、音の高さを工夫してイメージに合った旋律を作るという題材の学習テーマを立てる。
- ・I - IV - I - V - I - IV - V - I の和声進行からイメージできるストーリーを教師が示した中から一人一人が選択し、創作のもととなる表したいイメージをもつ。
- ・創作の条件（リズム・音域）を確認し、I・IV・Vの和音を演奏する練習をすることで、各自の創作に必要な最低限の技能を身に付ける。
- ・各自の表したいイメージをもとに自由に創作させることによって、様々な音のつながり方を表出させ、それぞれについて全体で共有し知覚・感受できるようにする。
- ・生徒の作品を毎時間回収し、進度を確認するとともに適宜朱書きして訂正することで、記譜の技能を高められるようにする。
- ・生徒が創作する時間を十分に確保するとともに、机間指導をしながら一人一人の思いや意図を聞き出し、音楽表現につなげるための指導を行うことで、課題や条件に沿った音の選択や組み合わせなどの技能を身に付けられるようにする。
- ・創作活動の途中で中間発表の時間を設けることで、他者の作品のよさや課題について共有し、各自の作品に生かしたり創作への意欲を高めたりできるようにする。
- ・リズムの反復・変化が音のつながり方に生かされている作品を取り上げることで、各自の作品を別の視点から考えられるようにする。
- ・ストーリー（表したいイメージ）の山場となる部分が音のつながり方で表現できているかや、半終止（I - V）・完全終止（V - I）の部分が続く感じ・終わる感じの旋律になっているかをグループで役割分担して判断することによって、音楽表現の妥当性を判断する上手な方法を共有できるようにする。
- ・題材の学習テーマをもとに聴く視点を提示し、作品を発表し合う活動を通して、音の高さを工夫することのよさや面白さを実感できるようにする。
- ・題材のまとめにおいて、日常的に耳にする音楽や既習曲を想起させることで、他の曲や生活の中で音の高さやそのつながり方、感情・イメージという見方・考え方を働かせるきっかけをつくる。

3 題材の目標

音のつながり方、反復、変化などの構成に関心を持ち、旋律、和声進行、リズムを知覚・感受しながら創作表現を工夫し、創意工夫を生かした創作表現をするために必要な課題に沿った音の組合せ方、記譜の仕方などの技能を身に付けて音楽をつくることができる。

4 指導と評価の計画（別紙参照）

※別形式「指導と評価の計画」を作成

5 本時の展開 (3/4)

(1) 目標

リズムを知覚・感受しながら音楽で表したいイメージをもち、反復、変化、などの構成を生かして音のつながり方を工夫し、音楽の山場や統一感のある旋律をつくることについて思いや意図をもつことができる。

(2) 展開

学習活動と予想される生徒の反応	指導上の留意点及び支援・評価
<p>1 本時の課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・○○さんの作品では、前半と後半の同じリズムのところでは旋律も同じにして統一感を出しているな。 ・「春が来た」では、一番伝えたい山場で音を跳躍させて、感動的な旋律にしているな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○前時までに8小節つくれている作品の中から、反復・変化を生かした作品を取り上げ、リズムの反復・変化と旋律との関わりについて気付かせる。 ○小学校で既習の「春が来た」を使い、歌詞の内容と旋律との関わり、リズムの反復・変化と音のつながり方の関わりを知覚・感受させ、自分の作品を判断する視点として生かせるようにする。
<p>課題：リズムの反復・変化を生かして、音の高さを工夫しよう。</p>	
<p>2 各自の作品を加筆・修正する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の作品は順次進行が中心だったけど、上行と下行が混ざっていて統一感がないから、どちらかにそろえよう。 ・ストーリーに合わせると、前半は落ち着いた感じにしたいから、後半よりも低い音を多く使おう。 <p>3 グループで発表し合い、役割分担して妥当性を判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の作品を一人ずつ演奏する。 ・一人あたり3回演奏する。 ・聞き手は以下の役割で評価する。 <ul style="list-style-type: none"> ①続く・終わる感じを判断 ②ストーリーの山があるかを判断 ③反復による統一感を判断 <p>4 グループでの評価をもとに、作品を加筆・修正する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最後が終わる感じになっていなかったのだから、ストーリーに合わせて静かに終わるようにしよう。 ・ストーリーの山場は7小節目なのに、最後が盛り上がりすぎてしまったのだから、7小節目に跳躍して高い音を使おう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○終了時刻を予告しておくことで、集中して加筆・修正に取り組めるようにする。 ○創作にはイヤフォンを使い、自分の作品と表したいイメージに集中して対話できるようにする。 ○机間指導を行い、記譜の技能を高められるようにする。 ○課題に沿った加筆・修正ができていない生徒の作品を中間発表することで、よさや課題を共有し、各自の作品に生かしたり意欲を高めたりできるようにする ○自分の役割を分かりやすくするために、何をチェックするのかについて明確にしたカードを全員に配布する。 ○1人当たり5分とし、作品は最低でも3回演奏させることによって、1つの作品について十分な判断の時間を確保できるようにする。 ○安定した演奏が困難な場合は、教師が演奏したり、グループのメンバーが和音を担当したりして、演奏の技能を図る場にならないように留意する。 ○作品を完成させるために、次時が発表であることを示して取り組ませる。 ○新たな思いや意図を視覚化させるために、グループでの評価をもとに何を加筆・修正したかを記録させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【思考・判断・表現】リズムを知覚・感受しながら音楽で表したいイメージをもち、音のつながり方や、反復、変化、などの構成を生かした創作表現を工夫し、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもつことができる。(観察・ワークシート)</p> </div>
<p><振り返り></p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品に統一感を出したり、山場を効果的に表現したりするためには、リズムの反復に合わせて旋律も反復したり、リズムの変化に合わせて大きく跳躍させたりするとよいのだな。 	

<「思考力、判断力、表現力等」育成のための具体的な手だて>

(1) 音楽表現の妥当性を判断する「ミュージック・ワークショップ」の展開

(2) 即興的な音楽表現の場の設定

指導と評価の計画 音楽 1年

題材「音の高さを工夫して、イメージに合った旋律をつくろう」(全4時間計画)

目標	音のつながり方、反復、変化などの構成に関心を持ち、旋律、和声進行、リズムを知覚・感受しながら創作表現を工夫し、創意工夫を生かした創作表現をするために必要な課題に沿った音の組合せ方、記譜の仕方などの技能を身に付けて音楽をつくることができる。				
評価規準	<p>【知識・技能】 音のつながり方、反復、変化などの構成を生かした創作表現をするために必要な課題に沿った音の組み合わせ方、記譜の仕方などの技能を身に付けて音楽をつくることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 旋律、和声進行、リズムを知覚・感受しながら音楽で表したいイメージを持ち、音のつながり方や、反復、変化、などの構成を生かした創作表現を工夫し、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもつことができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 音のつながり方、反復、変化などの構成に関心を持ち、それらを生かし創作表現を創意工夫する学習に主体的に取り組もうとしている。</p>				
過程	時間	目標・課題	学習活動	振り返り	評価項目 (方法・観点)
つかむ	1	◎旋律がどのように作られているかについて関心を持ち、音のつながり方を生かして「続く感じ」の旋律を創作する学習に主体的に取り組もうとしている。 イメージをもとに「続く感じ」の旋律をつくろう。	○I-V-Iで即興的に創作し、旋律をつくる学習について題材の学習テーマを立てる。 ○表したいイメージをもとに、続く感じの旋律(前半)をつくる。	☆リズムに合わせて音の高さを選ぶと旋律が作れる。 ☆最後の音をレやシ、ソにすることで、続く感じの旋律になる。	【主体的に学習に取り組む態度】 音のつながり方、反復、変化などの構成に関心を持ち、それらを生かし創作表現を創意工夫する学習に主体的に取り組むことができる。 (観察・ワークシート)
		題材の学習テーマ：音の高さを工夫して、イメージに合った旋律をつくろう			
追求する	1 (本時)	◎旋律、和声進行を知覚・感受しながら表したいイメージを持ち、音のつながり方を生かした創作表現を工夫し、「終わる感じ」の旋律をつくることについて思いや意図をもつことができる。 音の高さを工夫して「終わる感じ」の旋律をつくろう。	○作品から、音の高さがもたらす雰囲気の違いを知覚・感受する。 ○順次進行、跳躍進行について知る。 ○表したいイメージをもとに、音の高さを工夫して終わる感じの旋律(後半)をつくる。	☆順次進行や跳躍進行、上行、下行など、音のつながり方が変わると雰囲気が大きく変わるのだな。 ☆最後の音をドにすると、終わる感じの旋律になる。	【思考・判断・表現】 旋律、和声進行を知覚・感受しながら音楽で表したいイメージを持ち、音のつながり方を生かした創作表現を工夫し、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもつことができる。 (観察・ワークシート)
		◎リズムを知覚・感受しながら音楽で表したいイメージを持ち、反復、変化、などの構成を生かして音のつながり方を工夫し、音楽の山場や統一感のある旋律をつくることについて思いや意図をもつことができる。 リズムの反復・変化を生かして、音の高さを工夫しよう。	○リズムの反復・変化を生かした作品を聴いて本時の課題を立て、作品を加筆・修正する。 ○グループで発表し合い、役割分担して妥当性を判断する。 ○グループでの評価をもとに、作品を加筆・修正する。	☆作品に統一感を出したり、山場を効果的に表現したりするためには、リズムの反復に合わせて旋律も反復したり、リズムの変化に合わせて大きく跳躍させたりするとよいのだな。	【思考・判断・表現】 リズムを知覚・感受しながら音楽で表したいイメージを持ち、音のつながり方や、反復、変化、などの構成を生かした創作表現を工夫し、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもつことができる。 (作品の変容)
まとめ	1	◎音のつながり方、反復、変化などの構成を生かして創作するために必要な音の組み合わせ方、記譜の仕方などの技能を身に付けて、表したいイメージをもって旋律を完成させることができる。 発表し合い、音の高さの工夫のよさや面白さを見付けよう。	○各自の作品を見直し、完成させる。 ○作品を発表し合い、反復・変化を生かして音の高さやつながり方を工夫し、イメージに合った音楽になっているかどうかを評価しながら聴く。	☆音の高さやつながり方を変えることで、色々なイメージの旋律をつくることできた。また、反復や変化を生かすと、統一感のある音楽になることも分かった。	【知識・技能】 音のつながり方、反復、変化などの構成を生かした創作表現をするために必要な課題に沿った音の組み合わせ方、記譜の仕方などの技能を身に付けて音楽をつくることができる。 (作品の紹介文・作品)